

第4回富士見市健康づくり審議会会議録

日 時	平成27年11月19日（木） 午後1時30分～3時30分
場 所	健康増進センター 研修室
出席者	<p>○ 委員</p> <p>浅見 隆志委員 上田 しげ子委員 大竹 ミイ子委員 奥住 幸江委員 篠田 毅委員 關野 美知子委員 苗代 明委員 星野 悦子委員 前野 和子委員 溝辺 香織委員</p> <p>○事務局</p> <p>久米原健康増進センター所長 長谷部副所長 相原主査 樋口主任 駒林</p>
欠席者	伊藤 智委員、桶田 利夫委員、加瀬 勝一委員、三木 とみ子委員 三角 麻子委員
傍聴者	0名

内 容
<p>1. 開 会</p> <p>2. 会長あいさつ （富士見市健康づくり審議会条例第6条第2項、委員の過半数出席により委員会が成立することが報告された）</p> <p>3. 配布資料確認 ・富士見市健康増進計画・食育推進計画（案）</p> <p>4. 議 題 （1）前回からの変更点について 事務局：（前回からの変更点の説明） 議 長：ただいまの説明について質問やご意見はあるか。 前回の資料の 第2章 第1節 1. 人口の状況 で、「年齢3区分別人口の推移と推計」のグラフが、高齢化が進んでいるというのがわかりやすく出ていると思ったのだが、なくなったのか。 事務局：現在、国では少子高齢化が進むという現状を踏まえて戦略を立て、それに合わせ</p>

て市町村も創生戦略を立てているところである。創生戦略立案にあたり、人口ビジョン、将来推計が非常に重要になってくるということで、改めて総合政策部でビジョンを立てたため、本計画においても、そのビジョンに沿った人口推計を掲載した。

改めて将来推計を行ったことにより、当初予想されたよりも、減少の幅は少なくなり、なおかつ生産年齢人口の減少も少し抑えられた数字となっている。

議長：言葉全体についてだが、今までは「市では」という言葉だったのが、「本市では」というように変わっている。がん検診のデータも変わっている。

事務局：前回ご指摘いただき、修正させていただいた。

委員：2. 主要死因の状況 の変更点は、「死因別死亡者数」の表がなくなるということによろしいか。

事務局：こちらについては、実数ではなく、県と比した値が出ている。市によって年齢構成が違うということもあり、高いから一概に悪いと言えないということがある。年齢調整した死亡率を出そうかと当初考えたのだが、難しいということだったので、県を「1」にした値ではなく、県と富士見市と国を併記した形の表にしようかと考えている。

委員：2. 主要死因の状況 の文中の説明は、下の表の事を表しているかと思うのだが、説明文と表の内容に違いがあるがよいのか。

事務局：ご指摘の通り、「死因別の死亡者数」で見ると、人口構成によってかなり変わってくる場所がある。これは「主要死因別死亡者数」と比較すると、非常に分かりづらくなってしまっている。表をここに掲げている意味合いが変わってきてしまうということになるので、この表自体はあまりこの計画に関しての指標にならないかと考える。そのため、「主要死因別死亡」を国や県と比較した形で表の差し替えを考えている。

議長：これは死亡診断書に書かれた死亡原因を表しているのか。

事務局：その通りである。

議長：富士見市の特徴として、不慮の事故が多いというデータが出ているが、不慮の事故というのは、窒息や転倒などであり、老健施設が多いというのも要因の1つだと思う。

事務局：高齢者が多いと転倒・窒息などによる不慮の事故が多くなる傾向がある。そのため、単純に他の自治体と比較するのは無理があると考えている。

議長：第3章 第3節 分野別の基本方針と施策の体系 の体系図の基本目標について、前回は1つ1つ丸で囲まれていたのを、全てをまとめて四角で囲むという形に表現を変えたということによろしいか。

事務局：その通りである。

(2) 第4章 具体的施策・事業の展開について

事務局：(第4章 具体的施策・事業の展開について説明)

議長：なにかご意見はあるか。だいぶ見やすくなったように感じる。この節の構成として、「事業の取組状況」をはじめに記載し、「施策・事業の展開」が続いている。

記載方法も年代別に分かれていてだいぶ見やすく修正されたように思う。

① 第1節 栄養・食生活（食育推進計画）

議長：1. ライフステージに応じた食育の推進 で、「行政・関係機関が取り組むこと」のなかに、「早寝早起き朝ごはん」という言葉が出てくるが、前回の審議会で提示のあった通り、それぞれの単語の間に「・」を入れてみてはどうか。

「早寝」にも意義があり「早起き」にも意義がある。「朝ごはん」もしっかり食べようということなので、やはり「・」を入れて、「早寝・早起き・朝ごはん」という表現のほうがよいように感じた。

事務局：前は「早起き・早寝・朝ごはん」と記載していたが、学校ではそのような言葉を使わないというご意見をいただき、改めてこの用語について調べさせていただいた。文部科学省では、10年ほど前から「早寝早起き朝ごはん」の運動を推進しており、以前から推進していた運動を本市でも推進していきたい思いで、今回はそれに倣った表現とさせていただいている。

議長：「・」を入れてしまっただけではいけないのか。

事務局：富士見市でどのように推進していくかという考え方によって、「・」は入れても入れなくてもどちらでも構わない。

議長：私は「・」が入ることで強調されるように感じるのだが、どのように表現するか。公的な用語で、「早寝早起き朝ごはん」と使われているというのであれば、それに統一されるということではよろしいか。

委員：（異議なし）

委員：別添の計画修正案で、「現状と課題」の文面が長く分かりづらい表現となっている。

議長：確かにそのように感じる。委員の皆様においては、いかがか。確かに切ったほうが分かりやすい。そのように訂正を検討していただきたい。

委員：タイトルの文字は白抜きの方が見やすいと思う。

事務局：ご指摘の通り、修正させていただく。

② 第2節 身体活動・運動について

議長：数値目標の項目の表現が、前回審議会受到けて、学年・年齢と男女を分けて記載したことにより、非常に見やすくなっている。

この節について、他に意見はないか。

委員一同：（意見なし）

③ 第3節 健康管理について

委員：3. 児童生徒の健康管理の推進 で、同じ言葉で「子どもたち」と「子ども達」という文章表現をしているので、統一したほうがよい。

4. 成人・高齢者の健康管理の推進 （3）各種健診（検診）の実施で、「かかりつけ医を持ちましょう」と記載してあるが、第5節の歯科と口腔の健康の分野では、「かかりつけ歯科医をつくり」と記載されているため、統一したほうがよい

と思う。

議 長：歯科と口腔の分野のほうを、「かかりつけ医を持ち」に合わせて記載したほうがよいように感じる。

3. 児童生徒の健康管理の推進 について、「行政（学校等を含む）・関係機関が取り組むこと」の中で、「適切な時期に定期予防接種の勧奨を行い、」という記載があるが、実際は行われているのか。

事務局：乳幼児期は90%を超える接種率なのだが、小学校に入ってから行われる二種混合と日本脳炎の接種率が低い状況である。受けるべき時期に学校を通じてチラシで案内等を行っている。

議 長：乳がん検診は2年に1回というのが追加された。

この節について他にご意見はないか。

委員一同：（意見なし）

④ 第4節 ころの健康について

議 長：この節ではころの相談について普及啓発を図る必要があるということが施策の内容となっているように感じる。実際にころの健康相談は、障がい福祉課で行っていると思うが、実施率はどのような現状なのか。

事務局：障がい福祉課では相談事業を、「ころの健康相談」という形で実施しており、平成25年度は31人という実績になっている。広報等で周知を行い、市内の精神科医師による相談を受けられる。

議 長：12月からストレスチェック制度が義務付けられたことがニュースになっているが、社会的にもころの健康が重要視されているところである。

他にご意見はあるか。

小学生、中学生がころの問題を相談する先は、養護の先生なのか、あるいは、教員に相談するケースが多いのか。

事務局：富士見市では教育相談室があり、そこで様々な相談を受けている。学校ではさわやか相談員などの態勢は整備されてきていると思う。

⑤ 第5節 歯と口腔の健康について

委 員：計画より抜粋という文書を入れた理由はなぜか。

事務局：歯科口腔保健推進計画は、既に先行計画として策定されており、内容も健康増進計画で記載している分野より厚くなっている。そのため、歯科の分野においては、先行計画を参照していただきたく、抜粋という表現を追記させていただいた。

議 長：他に意見はないか。

委員一同：（意見なし）

(3) 第5章 計画の推進について

事務局：（計画の推進について説明）

議 長：第1節では市民、行政、学校（学校保健）、職場（職域保健）、医療機関等がそれぞれ役割を持って、計画を推進していくことが記載されている。第2節では、計

画の進行管理に関して、PDCA サイクルに沿って、事業を実施するだけでなく、実施したことを評価・改善し、また計画を立てて実施するというサイクルで、より充実させていこうということが記載されている。

PDCA サイクルの A だが、「Action」を「Act」にしているものもある。

日本語で和訳すると、「Action」は「見直し、処置」という意味で、「改善」という言葉がないので、もう一度確認していただきたい。

事務局：確認させていただく。

委員：各主体の役割で、職域等も入るのだが、地域の役割があったほうがよいような気がするがどうか。

議長：行政の役割の中に地域も入るのか、それとも別に分けた方がいいのか。

事務局：考え方としては、地域というと本市の場合で、町会等のイメージになるかと思う。

議長：行政の役割の中に、地域の中でも積極的にこういった活動に参加してほしい、という文言を入れるのも一つかもしれない。

作業部会で検討していただき、地域の役割を、行政の役割の中に入れるかどうか検討していただきたい。

委員：行政の役割の中に、「市民及び地域の取組を支援します」とあるので、独立させた方がいいのかどうかを検討していただきたい。

事務局：地域の役割については、検討させていただく。

(6) 計画の名称について

議長：計画名についてだが、法的な位置づけとしては、「富士見市健康増進計画・食育推進計画」となるが、この計画をより市民に身近に感じてもらえるように副題を検討していきたいと思うが、いかがか。

前審議会で、計画をあらわす言葉として基本理念を「みんなでつくる健康長寿のまち富士見」している。また、昨年度策定した食育推進条例では、タイトルを「富士見市みんなで取り組む食育推進条例」としている。

目指すところは健康長寿ということなので、「健康長寿のまち富士見（健康増進計画・食育推進計画）」でもよいと思うし、シンプルなものでいいのではないかと思う。他に案はあるか。また、副題に健康長寿を使っている市町村は他にあるか。

事務局：さいたま市のヘルスプラン 21 では、「健康長寿の延伸を目指して」という副題になっている。

委員：長寿というと、高齢者のイメージがある。市民には、若者や子供もいるわけだから、他の言葉も考えてみてはどうか。

議長：健康長寿というのは、みんな健康で長生きしようということなのだと思う。

事務局：子どもの頃から健康づくりに取り組み、皆さんが揃って健康長寿を目指すというイメージになるかと思う。

委員：長寿を「長いき」にすると、平仮名も入るしいいのではないか。

議長：市内の公共施設や歯科口腔保健推進計画に倣って、「☆」を入れてみてもよいのではないか。

議長：基本理念が健康長寿を掲げており、統一感を持たせた方がよいと思う。長生きの「いき」を平仮名にするというのは斬新だと思う。他に意見はないか。

委員：「ヘルスプランふじみ」はどうか。

委員：長寿を平仮名にして「健康ちょうじゅプラン」はどうか。

議長：正式名称はどこに入るのか。

事務局：タイトルの下に入る予定である。

議長：健康増進計画と食育推進計画が併記される。副題があまり長いと、タイトル自体が長くなってしまう。シンプルな方がいいと思う。

委員：「健康いきいきプラン」はどうか。

議長：「長寿」というのが取り方によって、高齢者中心という風になってはいけないと思う。

委員：「健康ライフプラン」はどうか。

委員：「富士見 de 健康ライフ」はどうか。

委員：「健康きらりライフ☆ふじみ」はどうか。

委員：「健康ライフ☆ふじみ」はどうか。

議長：それぞれに意味合いがあっていると思う。多数決で決めたいと思う。

委員一同：(委員一人2票を好ましい副題に挙手をしていただく)

委員：多数決の結果「健康ライフ☆ふじみ」に決定した。ご協力感謝する。

(7) 今後の日程について

事務局：11月30日の政策会議に、パブリックコメントに提出する案を確定させる。その際、今回ご指摘いただいた以外の修正もあり得る。本来なら、もう一度審議会を開き、修正した部分についてご説明するのが筋だが、時間がないということもあり修正については、事務局に一任いただきたいと思います。その案を持って、12月7日から1ヶ月間でパブリックコメントを行い、意見が提出された場合、前回調整した1月28日に第5回審議会を開かせていただき、その対応案をご検討いただきたいと思います。パブリックコメントで意見が提出されなかった場合は、この審議会は開催しないため、ご了承をお願いしたい。

計画についてはパブリックコメントの対応を経て、計画の確定になる。その段階で市長へ健康づくり審議会の計画案を答申し、市長決裁をもって確定する。2月の月上旬から中旬の日程で、会長から市長に答申を予定しており、改めて健康づくり審議会の場で答申は行わないため、パブリックコメントで意見が提出されない場合は、今回の審議会が今年度最後の審議会となる。パブリックコメントによって意見が提出された場合には改めて通知させていただく。

5. 閉会